

パプアニューギニア国防軍・軍楽隊への演奏服寄贈式典

伊藤 明德 (ポートモレスビー支部長)

日本パプアニューギニア協会、日本防衛省・自衛隊と JICA は協力しながら、PNG 国防軍・軍楽隊の立ち上げ、楽器の供与と演奏指導の支援をしてきました。

9月29日に、ポートモレスビーの PNG 国防軍本部マリーバレックスにて、協会会員の田中富久子氏、堀江正夫氏の寄付をもとに、協会で準備させていただきました PNG 軍楽隊の演奏服の寄贈式典が、日本防衛省・自衛隊の協力で開催されました。式典には、PNG 国防軍フィリップ・ポレワラ副国防軍司令官と関係者、鯉沼真里 JICA PNG 事務所長、日本大使館から外丸泰之書記官、そして桜井政友日本防衛省代表のご参列のもとで私が代表して演奏服を軍楽隊へ寄贈致しました。その様子は、新聞とテレビで広く PNG の人々へ紹介されました。その様子を紹介します。

協会は、2015年、日本の防衛省を通じて、PNG 国防軍が軍楽隊の立ち上げの要望を知り、防衛省と協議をすすめました。軍楽隊が設置された後の2016年には、軍楽隊の練習用楽器として、法人会員である仙台育英学園様より保守された良質の中古楽器の寄贈を、協会が支援しました。軍楽隊は、自衛隊中央音楽隊と JICA の支援により、更なる楽器の支援と技術指導受け、2018年にポートモレスビーで開催されたアジア太平洋経済協力 (APEC) 会議では、当時の安部首相や河野外務大臣、各国首脳陣の前で君が代や文部省唱歌の「ふるさと」を含む素晴らしい演奏を披露しました。

その後、協会は、防衛省を通じて PNG 軍楽隊が演奏服を要望されていることを知りその寄贈の可能性を防衛省と2人3脚で模索しておりました。その折に協会会員である田中富久子氏より先の大戦でお父様がお世話になった PNG に何か恩返しをしたいとお申し出をうけ、堀江正夫氏からのご賛同と寄付、そして協会の予算を加えて今回の寄贈がかないました。田中富久子氏は、戦争中は軍の作戦参謀で、戦後は戦友会会長としてパプアニューギニアの発展と国民への報恩の為尽くされた田中兼五郎中佐のご長女です。堀江正夫氏は、当協会名誉顧問 現在 104 歳 戦後パプアニューギニアから戦後ご帰還されて、防衛省幹部、国会議員を経て現在もなお日本兵の遺骨返還活動に取り組まれておられます。

寄贈式典当日は、寄贈される PNG カラーの演奏服を身に付けた軍楽隊のメンバーによる両国の国歌演奏により開始されました。私が協会を代表してご挨拶をさせていただきました。協会の紹介と軍楽隊への支援について、田中氏と堀江氏の紹介と「日本で、晴姿の軍楽隊の皆様にお目にかかるのを楽しみにしています。」との田中氏のメッセージも紹介しました。参列された方から大きな拍手を頂きました。また、軍楽隊への支援が NPO 団体の協会、そして日本政府の防衛省と JICA が協力し、オールジャパンで支援が続けられ、その成果がみごとに花開いた喜びを伝えました。ポレワラ副国防軍司令官からは、協会へ寄贈された演奏服は日本との友好の印であり PNG 軍楽隊メンバーが誇りを持ち発展に繋がると感謝が述べられました。

寄贈された演奏服は、PNG の軍楽隊にふさわしい素晴らしいデザインです。この演奏服は、PNG や世界の舞台での軍楽隊の演奏を引き立てることでしょう。仙台育英学園様からの楽器寄贈時から必死に練習を重ねる軍楽隊メンバーの様子と成長を見てきました私は、演奏服を身に付けた晴れ姿と喜ぶ彼らの姿は一生忘れられることのできない思い出となりました。軍楽隊の益々の成功を期待しています。



伊藤支部長からポレワラ副国防軍司令官



左から鯉沼 JICAPNG 所長、伊藤支部長、ポレワラ副国防軍司令官、外丸領事



軍楽隊の演奏



記念撮影

荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

2021年9月16日、新大使 H.E. Mr. Samuel T. Abal が Madam Anna, 10歳のお嬢様 Ms Ester、メイドさんと共に成田空港に到着されました。

COVID19の特例措置により、約14日間の宿泊先での隔離期間を経て、10月初旬に大使館にお見えになりました。

10月21日皇居にて天皇陛下に本国からの信任状を贈呈するための信任状奉呈式を無事終えられ、正式に特命全権大使としての活動が可能になりました。

当該大使館も大使不在の時期が4年にも及び、皆様にはいろいろな場面でご不便をおかけ致しましたが、その間、臨時代理大使の Mr. Samson Yabon が COVID19 の渦中にもかかわらず、大使館業務を見事に成し遂げられました。

今後は、Mr. Yabon は 参事官 (Councilor) として、Abal 大使のサポートをしながら、大使館業務を Abal 大使とともにこなされていく所存です。

大使の経歴としましては、1979年にソルボンヌ大学にて国際関係のディプロマを所得後、1980年よりパプアニューギニア外務省に入行されました。その後ベルギーのブラッセルに1983年から1986年までEUのパプアニューギニア代表団に2等書記官として

駐在され、その後、外務事務次官等を経験された後、政治家として再スタートをされました。2005年には故ソマレ首相から、Provincial Affairs の大臣に任命され、その後、外務大臣、副首相などを歴任、2020年7月14日にパプアニューギニア大使に任命され現在に至ります。

今後とも Abal 大使への温かいご支援、サポートをどうぞ宜しくお願い致します。



Samuel T. Abal 氏



皇居への信任状奉呈



Yabon 氏 (左) と Samuel 氏 (右)

渡邊 信之 新在パプアニューギニア 日本大使からのご挨拶

日本・パプアニューギニア協会会員の皆様

この度、在パプアニューギニア大使に就任し、11月中旬に赴任することとなりました。同国での勤務は、初めてとなりますが、新鮮な気持ちで赴任し、日本との交流発展、現地で活躍される邦人の方々のご支援に、少しでもお役に立てればと思っております。

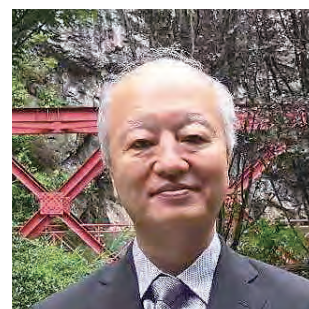
パプアニューギニアは、豊かな自然、資源、人間に恵まれ、我が国とも深い縁で結ばれていると承知しております。近年では、2018年に安倍総理（当時）が訪問、2019年にはダダイ総督が即位の礼に参列、昨年は茂木外務大臣が訪問する等ハイレベルの交流が行われております。また、本年は、第9回太平洋・島サミットが開催され、我が国とパプアニューギニアをはじめとする太平洋島嶼国との関係をオールジャパンで強化していくことが確認されております。

貴協会におかれても、常日頃から我が国とパプアニューギニアとの交流拡大に多大な尽力を頂いており、とりわけ、本年のパプアニューギニア軍楽隊への演奏服の寄贈は、現地でも大きく歓迎されたとうかがっております。

我が国にとっても、国際社会にとっても重要性を増しつつあるパプアニューギニアとの関係を一層促進して

いくため、貴協会共々尽力していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

在パプアニューギニア大使
渡邊信之



渡邊 信之氏 略歴

出身地	静岡県
昭和 57 年 3 月	静岡大学人文学部法学科卒業
昭和 57 年 4 月	外務省入省
平成 21 年 10 月	アジア大洋州局中国・モンゴル課地域調整官
23 年 6 月	在ボストン日本国総領事館 領事
27 年 2 月	参議院参事 国際部国際交流課長
31 年 3 月	在重慶日本国総領事館 総領事
令和 3 年 10 月	特命全権大使 パプアニューギニア国駐節

在パプアニューギニア日本大使館

中原大使のラバウル出張 - 草の根無償の引渡式の実施など

10月6日から9日、中原大使は東ニューブリテン州を訪問しました。大使にとって初めての同州訪問です。滞在中、ナキクス・コンガ知事と懇談したほか、草の根・人間の安全保障無償資金協力「ラニオロ居住区給水整備計画」及び「ナパパルプライマリー学校整備計画」の事業完成に伴う引渡式に出席しました。また、同州観光局博物館や戦争関連の史跡を視察しました。以下、主要行事の概要をご紹介します。

まずはコンガ知事との懇談です。海に突き出た東屋で、広々とした海を眺めながら2時間にわたり東ニューブリテン州の開発や日 PNG 企業交流等について語り合いました。ラバウル・ココボ地区は日本と歴史的に深い関係があり、また日本は同地域を PNG の主要経済のひとつとして重視しています。大使からは、今回引渡式を行うプロジェクトの他にも、JICA を通じてこの地域のインフラ開発計画策定作業をしていることや、道路整備用の建設機材を供与したことなどを説明しました。知事からは、それら新規支援以外にも、トクア空港や地元ラジオ局の建設、海外協力隊の派遣など、日本から様々な協力をいただいていたと感謝の言葉がありました。また、今後は民間企業間の交流を活性化したいとの話がありました。

州都ココボの郊外、ラニオロ居住区には約2千人が暮らしていますが、水道設備がなく人々は天水や徒歩1時間もかかる町の市場で購入する水に頼らざるを得ない生活です。日本は9千リットルのタンク15基を設置し、取水用構造物を建設しました。大使はスピーチの中で、「安全で健康的な水の供給・貯蓄ができるようになり、日々の暮らしが改善するだろう。不衛生な水による病気が減り、生活水準が向上することを望みます」と述べました。これに対し、地元国会議員からの「水は命である。誰にとっても必要なもの。日本は必要なものは何かと考えて支援してくれる友人である」とのメッセージが紹介されました。

次いで行われたのは、生徒数が増加の一途をたどり、深刻な教室不足に悩むナパパルプライマリー学校への2教室・1教員室・水タンク4基の引渡式です。出迎えてくれた生徒達は、

体を鳥の羽根と緑の葉で包み、妖精のような可愛らしさです。手作りの日の丸の旗を振って大使を迎えてくれました。大使は「教育は単に知識を得るだけではない未来への投資です。日本は教育分野における PNG 政府の努力を支援したい。生徒の皆さん、この教室は日本人々からの贈り物です。君たちの弟や妹も使えるように大切にしてください」と述べました。出席されたコンガ知事は「ここは祖父母世代が日本語を話す、日本と特別な関係がある州です。日本はそれを忘れません。この学校にも美しい校舎だけでなく4基の水タンクをいただきました。この意義ある二国間関係に感謝しましょう」と述べました。

その後、大使は州観光局の博物館のほか、山本五十六元帥が指揮をとったとされる「山本バンカー」、戦没者の御霊を追悼する「南太平洋戦没者の碑」、網の目のように掘られたトンネルを利用した「旧日本軍地下病院」などを視察しました。熱い雨期を迎える前の比較的過ごしやすい毎日でしたが、ポートモレスビーよりもずっと暑い気候でした。戦時中の日本兵の方々のご苦労が偲ばれるラバウル訪問でした。



PNG 国防軍軍楽隊への演奏服寄贈式

9月29日、日本・パプアニューギニア協会からパプアニューギニア国防軍軍楽隊に対する演奏服の寄贈式が行われました。昨年、演奏服の寄贈が決定されて以降、防衛省と PNG 国防軍との間でその製作に係る調整が行われ、この度の寄贈に結実しました。

式典には日本・パプアニューギニア協会の伊藤ポートモレスビー支部長をはじめ、鯉沼 JICA 事務所長、櫻井防衛省政策局2等陸佐及び陸上自衛隊中央音楽隊の教官5名が参加し、当館からは外丸書記官（防衛省出向）が出席しました。伊藤支部長から PNG 国防軍副司令官のポレワラ准将に演奏服が手交され、寄贈された演奏服を着用した軍楽隊が両国国家の吹奏のほか、楽曲演奏を披露して、参加者に大きな感動を与えました。

ポレワラ准将は式典の冒頭、「軍楽隊の演奏はいつも素晴らしいかった。制服を除いては…しかし、今日からは見栄えも素晴らしい軍楽隊になった」と発言し、PNG 軍を代表して深謝の意を表しました。この寄贈式の模様は当地メディア（EMTV、ナショナル紙、ポスト・クーリエ紙）でも大きく取り上げられました。

2015年から PNG 軍楽隊への指導を行ってきた陸上自衛隊中央音楽隊の教官の方々は、軍楽隊員の晴れ姿を我が身のこ

とのように喜び、今後開催が予定されている自衛隊音楽祭りでの日・PNG 合同演奏の実現を目指し、決意を新たにしたいとのことです。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、自衛隊音楽祭りへの参加が実現すれば、PNG 軍楽隊にとっては、2019年に豪州で参加した軍楽祭「ロイヤル・エディンバラ・ミリタリー・タトゥー」に続いて2度目の海外遠征となります。

2018年の PNG・APEC では安倍総理夫妻（当時）の前で素晴らしい演奏を披露した PNG 軍楽隊ですが、その後、コロナ禍において我が国がいかにして支援を継続していくか、などの課題があります。今般日本・パプアニューギニア協会から寄贈された演奏服で、中央音楽隊と肩を並べて日本で演奏する日が少しでも早く来ることを心待ちにしています。



日本の友人の皆様への謝辞

キベ・ケレンボ ソゲリ国立高校校長（10月末日離任）

親愛なる日本の友人の皆様、特に日本パプアニューギニア協会および姉妹校である仙台育英学園高等学校の皆様へ、離任のご挨拶を兼ねこれまでのご厚情に謝意を申し述べます。

貴協会は、2016年8月の仙台育英学園高等学校との姉妹校提携の貴重な橋渡しをして下さいました。これが今の姉妹校交流の基礎になっています。パプアニューギニア史上このような親密な学校間の教育交流はかつてありません。また、貴協会は、2019年、わが国の大学生（3名）を対象に4年に亘る『日パ友好奨学金プログラム』を実施されました。嬉しいことに、選ばれたのは3人とも当校出身者でした。貴協会と当校との関係およびコラボレーションがさらに深まることを期待致します。

教育交流は日本大使館との絆も深めました。当校の卒業式に2017年には中嶋大使の、2019年と本年は参事官のご臨席を賜りました。2018年の新大使館落慶レセプションには故マイケル・ソマレ初代首相（ソゲリ OB）が貴賓として参加されており、話ができただけは輝かしい思い出です。

仙台育英学園高等学校との姉妹校関係下の数々の成果は私にとっての勲章です。

2019年3月に訪日し、仙台育英学園高等学校の国際バカロレアプログラムを始めとする日本の教育機関におけるカリキュラム研究を視察するとともに日本の文化も体験しました。これが弾みとなり、本校の生徒だけでなく教諭も仙台育英学園高等学校に受け入れて頂きました。

当校は2017年以来、仙台育英&ソゲリ日本語センター（JLC）をホストしており、2018～2021年の4年間で、131人の2年コース修了者を輩出しました。本年7月にはわが国初となる日本語能力試験実施に際して、当校が会場となり、パンデミックの中でしたが、無事に実施されました。実施委員会の1人としても慶賀に堪えません。

仙台育英学園高等学校の加藤雄彦校長先生による当校への

ご支援は多岐にわたります。2011年の教育資材の寄付に始まり、JLCの建設、5kWソーラーシステムおよび下水ポンプの設置、多くのコンピューター、スーツケース、卒業記念品を頂いてきました。さらに、老朽化し断水に悩まされるソゲリ地区の水供給システムを、国際ロータリー財団と地元ロータリークラブのサービスをアレンジし、刷新して下さいました。心より感謝申し上げます。

最後に、皆々様の益々のご繁栄並びに私達の関係のさらなる発展を願っています。後任の校長も、貴協会との関係およびJLCの向上に努めてまいります。有難うございました。



ソゲリ水プロジェクトの基礎工事現場
大型タンク基礎工事の写真



仙台育英学園高等学校から贈呈された
スーツケース等と筆者（本年8月）



仙台育英学園高等学校から贈呈された品々



PCを操作する生徒達

事務局からのお知らせ

ごくらくちょう 73号をお届けいたしました。

協会では非常事態宣言が恒常的に解除されましたら、アベル新大使の歓迎会を開催予定です。また、渡邊新大使の一次帰国をお待ちして、大使からの報告会を開催いたします。来年早々の開催を予定したいと思います。御案内をお待ちください。表紙を飾りましたパプアニューギニア国防軍

軍楽隊への演奏服の寄贈ですが、主役は当協会会員の田中富久子様、堀江正夫様のお二人です。協会は防衛省と共に現地の国防軍との調整、制服の選定、そして完成した制服の輸送などを実施致しました。Made in Japanのフルオーダーです。

お二人のご寄附と 생각이このような形で両国の架け橋になる事は素晴らしい事です。それを支えてくださいました防衛省、在 PNG 日本大使館の方々にも深く謝意をお伝えしたいと思います。このまま新型コロナウイルスが収まれば、来

年には防衛省の音楽祭でこの演奏服を着た PNG 国防軍軍楽隊の演奏をお楽しみ頂ける予定です。

次号のごくらくちょうは令和4年1月末の発行です。本年は昨年同様新型コロナウイルスの為、TOKTOK 会や総会での懇親会なども一切開催が出来ず、会員の皆様には大変申し訳なく思っております。

来年こそは、状況を見極めて協会活動を活性化させ皆様とできるだけ早くお会いできるよう努めて参ります。引き続き皆様の協会へのご協力、ご支援をお願いいたします。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：25社 ◆ 個人会員：114名（2021年10月29日現在）

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン株式会社内
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員 6,000円 家族会員 3,000円 法人会員 60,000円 学生、PNG人 1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ